



植樹後の記念撮影。充実の表情です

約200人が国有林で植樹

豊かな森林を 次世代につなぐ

世代を超えて参加

5月31日、山形町地内の国有林で三陸北部森林管理署久慈支署主催の植樹祭が行われ、小国小学校・霜畑小学校の児童や、久慈東高校の生徒、最高齢88歳を含む一般参加者など、世代を超えて約200人が参加しました。

小森哲也支署長は「二酸化炭素を吸収したり豊かな三陸

の海を育くむ森林が、私たちの生活に密着していることを感じてほしいです」とあいさつ。参加者を代表して細工藤茉緒さん（久慈東高校3年）は「環境改善に役立てることをうれしく思います」とメッセージを述べました。

伐採は約60年後

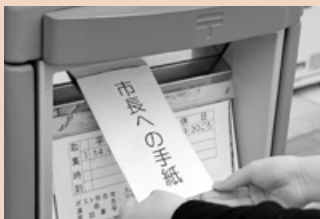
晴天の中、参加者は平成22年にアカマツを伐採した場所約0.3haに、カラマツの苗500本を協力しながら、一本一本を大切に植樹。菊池萌生さん（小国小2年）は「元気に大きくなってほしいです」と願っていました。

植えられた苗が立派に成長し、伐採されるのは約60年後。豊かな森林は次の世代につながっていきます。

Information

皆さんの声を聞かせてください

市長への手紙



市は、まちづくりに対する皆さんの意見を聞き、市の仕事に生かしていくため「市長への手紙」を行っています。皆さんからお寄せいただいた手紙は、市長が直接開封します。その後、市役所の各担当課で「アイデアを実現できるかどうか」「実現するにはどうしたらよいか」などを調査、検討してご本人に回答します。

市の仕事に対する意見や疑問など、皆さんからの手紙をお待ちしています。
▶用紙…本号にはさみ込んである用紙または市HPからダウンロードしてお使いください。